

「日々の理科」(第 1622 号) 2018 (H30), 12, 17

## 「2018 年のふたご座流星群観測」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「ふたご座流星群」(略してふたご群)は、年間の「三大流星群」の一つで、毎年比較的多くの流星を見られることで有名だ。1 時間あたりの流星数は 20~30 個と言われ、ふたご座付近だけでなく、全天くまなく流星が飛ぶので、一晩中観測できる利点がある。冬至に近く、夜が長いのも観望を有利にしている。今年のふたご群も、東京でもかなり期待されていたが、やや期待はずれだったようだ。子どもたちの中にも、かなり熱心に観察して者がいたが、「1 個も見られなかった」という声が多かった。

私は仲間とプロジェクトを組んで、北極圏でオーロラ観測をしている。デジタル一眼レフカメラで東京から遠隔観測をしているのが特徴で、オーロラだけでなく、流星、彗星、惑星、星雲や星団、系外銀河、夜光雲などの観測にも成功している。



写真は 2018 年 10 月に観測されたオーロラである。通常のオーロラ観測に使われている、高感度 CCD カメラの画像とちがい、オーロラの微細な構造(磁力線に伴うレイ)や、色の変化までに克明にとらえられるのが特徴だ。一緒に写っている恒星を解析すると、9 等級以下の非常に暗い星まで写せる性能と判明している。夜間は 30 秒ごとに、ほぼシャッターが開いたままになっているので、流星群の観測には非常に有利だということも特徴だ。



[2018\\_1213\\_0140](#)

写真は、今回の流星群で最初にとらえた流星である。カメラは 6 台設置してあるが、一番東側のカメラがとらえていた。レンズは超広角だが、それでもかなり明るく写っている。(2 ページ目に拡大画像)



右側の流星部分を拡大してみた。さすがにデジタル一眼レフの解像度で、拡大しても暗い恒星まで点像として写っている。流星の上方にある星団は、「かに座」の「プレセペ星団」、ふたご座はその更に上方にある。流星はふたご座方向から飛び、消失前に「爆発(増光)」している様子まで、はっきりととらえている。

